

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW



International University of Health and Welfare

vol. 106
August
2016

第21回

大田原キャンパス運動会

関連職種連携実習
関連職種連携ワークショップ報告会

関連職種連携教育

平成28年度



2.3 特集1 関連職種連携教育

関連職種連携ワークショップ報告会／
関連職種連携実習

4.5 特集2 運動会 大田原キャンパス

キャンパスレポート

6-10 成田キャンパス／小田原キャンパス／福岡キャンパス／
大川キャンパス／大学院／塩谷看護専門学校

トピックス

11 あいおいニッセイ同和損害保険株式会社奨学生認証式／平成
28年度 国際医療福祉大学 年間成績優秀表彰／「2016年
度 IUHW奨学金授与式」を開催

12 熊本地震募金活動／本学大学院生がJMAT（日本医師会災害
医療チーム）に参加

13 「岩沼市『千年希望の丘』植樹祭」に参加／「医学部説明会」を
開催／「保護者のための就職講座2016」／2015年度卒業生
国家試験結果報告

14 国際トピックス インドネシア ウダヤナ大学学長が訪問／元培醫
事科技大学からの短期研修生を受け入れ／さくらサイエンスプ
ランで医学部生10人・教員2名が来訪／海外3校と新たに学術
交流協定を締結

15 ベトナム・モンゴルの大学と医学部留学生特別奨学金制度に関
する覚書を締結
第6回 留学生が見た母国と日本の保健福祉事情

16 「赤坂キャンパス起工式」を実施／新「柳川療育センター」開設
大学の「神経発達症研究センター」併設

17 施設インフォメーション

国際医療福祉大学病院／国際医療福祉大学塩谷病院
国際医療福祉大学三田病院／国際医療福祉大学熱海病院

18 同窓会通信

19 生涯学習のご案内

20 学生投稿ページ

文部科学省事業 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
「高度がん医療開発を先導する専門家の養成」

日程：10月23日（日）
会場：国際医療福祉大学大学院 東京青山キャンパス

①10：00～12：10

国際医療福祉大学大学院 公開シンポジウム

『がんと在宅医療～地域包括ケアにおけるチーム連携～』

②13：30～14：45

国際医療福祉大学大学院 一般市民公開講座・講演会

『肺がんと喫煙の決算報告書
～肺がん診断治療の最前線と喫煙のトリビア～』
奥仲 哲弥 国際医療福祉大学教授／山王病院副院長・呼吸器センター長

詳細と申込みは大学院ホームページで。

関連職種連携実習

七月三〇日～八月五日、「関連職種
連携実習」を実施した。四つのステッ
プからなる「関連職種連携教育」の仕
上げとなるこの実習では、「関連職種
連携ワーク」と同様に学科混成チーム
を編成。このチームで病院や福祉施設
に向いて、実際の患者さんや利用者
の方を対象に一週間の実習を行った。
今年度は全学科から一九八人の学生が
二二チームに分かれ、本学の附属病院
や関連施設など一五の施設に出向いた。
実習は、まず他職種の現場を訪れる
ことから始まる。これにより、他職種
への理解を深めるとともに、チームが

担当する
患者さん
や利用者
の方の情
報を収集
する。こ
れに基づ
いてアセ
スメント
を行い、
結果をサ
マリーに
まとめた
後、治療
計画やサ
ービス計

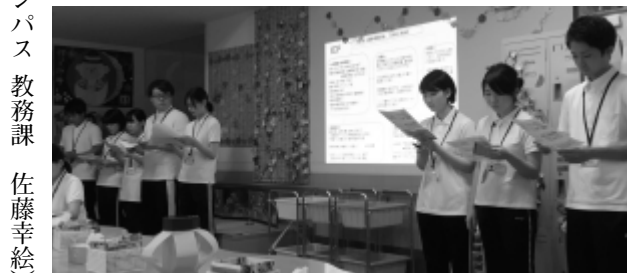


●病院でのグループワークの様子



●福祉施設でのグループワークの様子

間を吟味す
ることで、計
画案はより現
实的なものとな
っていく。
まさしく本
物の「職種間
連携」の体験
である。
これを受け
て、八月二七
日には大田原
キャンパスで
「報告会」を
実施した。



●カンファレンス（発表）の様子

関連職種連携ワークショップ報告会

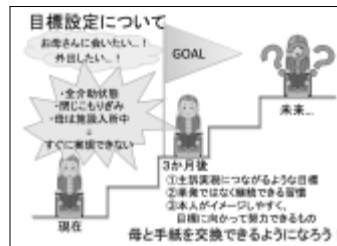
「関連職種連携ワークショップ」は問題解決型
体験学習で、今年度は全学科から合計九
二二名の学生が履修登録した。
学科混成の六一チームを編成し、各チ
ームにチューター教員が一～三名ついて、
与えられた事例について、解決方法と職
種間連携のあり方について討議した。
六月二五日、大田原キャンパスで「関
連職種連携ワークショップ報告会」を行った。
午前の部は「事例
内報告会」として、
「事例一」「二」「電
子カルテ」「グロー



NS3年 入野幸菜、鈴木鮎美
PT3年 印南俊宏
OT3年 打越大貴、星梢
ST3年 舟守千瑠子
ORT3年 稲見恵理華、人見理絵子
RT3年 阿部令奈、鈴木駿太郎
SHM3年 菊地郁美、柏倉優香、星幸弥
PS3年 岩井純平、佐藤瞳、橋本裕翼



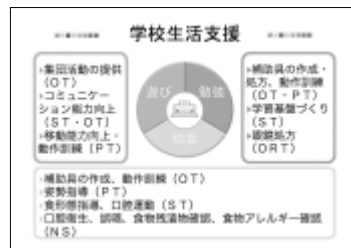
NS3年 片山弓佳、野村真由
PT3年 中泉雄大
OT3年 小野祐美
ST3年 黒須優、渡辺香葉
RT3年 川崎怜奈、野本充良
SHM3年 田村翔汰、渡邊大揮、
村山奈緒
PS3年 田村歩、東條航大、武藤希美



学科名称

NS：看護学科
PT：理学療法学科
OT：作業療法学科
ST：言語聴覚学科
ORT：視機能療法学科
RT：放射線・情報科学科
SHM：医療福祉・
マネジメント学科
PS：薬学科

NS3年 櫻井杏奈、山崎悠香
PT3年 宮田歩
OT3年 木津瑞穂
ST3年 秋山仁哉、関口教子
ORT3年 福釜沙知栄
RT3年 鈴木翔、田中美聡
SHM3年 鈴木麻友、本多一誠、安藤嶺花
PS3年 坂上敬亮、長谷川碧衣、舟山裕太郎



95チーム

事例 脳性麻痺

（チューター教員：筒井久美子）



25チーム

事例 脳血管性認知症、高血圧症、構音障害、
左不全片麻痺（チューター教員：大石剛史）



53チーム

事例 脊髄損傷、四肢麻痺
（チューター教員：平田文）



優秀賞

バル」が二教室に分かれて、一〇分間の
発表と質疑応答を行った。
午後の部は、まず「事例代表報告会」と

して「事例内報告会」の各教室から互選に
よって選出された事例代表、電子カルテ
チーム、グローバルチームの一ハグル
ーが三教室に分かれて、再度発表を行っ
た。その結果、各教室から優秀賞が選出
され、それぞれの教室で表彰式を行った。
（大田原キャンパス 教務課 渡辺陽子）

特集1

関連職種連携教育

平成
28年度

関連職種連携ワークショップ報告会
関連職種連携実習





●撮影協力は写真部



綱引き



栄光の架け橋



借り物競走



リレー

応援合戦

応援合戦の優勝は
看護学科の
「よさこいソーラン」

5月21日、大田原キャンパスで
21回目の運動会が開催された。
最高気温は30度近くになったものの、
強い直射日光や
風に悩まされることのない
絶好の天候に恵まれた。
総合優勝は理学療法学科、
応援合戦の優勝は看護学科といずれも連覇した。
応援合戦では、伝統をしっかりと受け継ぐ学科がある一方、
果敢に新趣向に挑戦する学科もあり、
来年に期待をつなぐ内容となった。

バットde
グルグル実行委員長は山田向日葵さん
(放射線・情報科学科1年)。
実行委員総勢115人を
まとめました。総合優勝に輝いた
理学療法
学科

大縄跳び



●言語聴覚学科



●看護学科



●理学療法学科



●作業療法学科



●医療福祉・マネジメント学科



●視機能療法学科



●放射線・情報科学科



●薬学科

成田

第4回
キャンパスレポート

「ミニオープンキャンパス」開催

五月二日と六月一日、成田キャンパスでミニオープンキャンパスを開催した(五月二日は、特別講演会を同時開催)。開学後初のミニオープンキャンパスになったが、想定よりも多くの来場者を迎えることができた。

「大学紹介」に始まり、「学部学科紹介」、「二〇一七年度入試説明」、「英語体験(入試対策・メデイカルイングリッシュ)」、「入試個別相談」など、キャンパスや入試に関わるさまざまな情報を提供した。



●来場者に説明をする学生

各学科では、教員や学生スタッフが趣向を凝らした多くのイベントを行い、来場者も興味深そうに体験していた。また、一階の学食では「先輩交流スペース

&カフェ」を設置し、ハワイアンミュージックが流れるなか、学生スタッフが来場者に対して、丁寧かつ積極的にコミュニケーションを図った。



●特大講義室での大学紹介

来場者からは、「去年はまだキャンパスができてなかったの、今回見られたことで、よりこの大学で学びたいという気持ちが増した」、「一つひとつ丁寧な説明でわかりやすかった」、「皆さんとても優しく、質問にもしっかりと答えていただきました。来てよかった」など、嬉しい感想が多く寄せられた。



●CALL教室での英語体験

今回の経験を次のオープンキャンパスに生かし、少しでも大学・各学部学科や職業理解に繋がるように取り組みたい。

(広報 原誠二)

「サンプルーノ市中学生訪問団」来学

七月四日、アメリカ・カリフォルニア州サンプルーノ市からパークサイド中学校の生徒ら一名が来学した。サンプルーノ市は、成田市の姉妹都市で、例年この時期に中学生のホームステイ交流を行っている。



●大階段での記念写真

その事業のひとつとして、今年本学が開学したことから、看護学科と作業療法学科が中学生に対して体験学習を行った。看護学科では「食育S A Tシステムを使用した栄養管理」の学習などを体験し、作業療法学科では「お箸体験」などに本学学生とともに楽しみながら取り組んだ。学生もぎこちないながらも英語でのコミュニケーションを楽しんでいる様子だった。



●「お箸体験」をするサンプルーノ市の中学生と本学学生

六月三日、地元「公津の杜小学校」二年生一三三名が本学の施設を見学した。最初に、特大講義室で事務職員が大学の概要を説明した。普段授業を受けている教室より圧倒的に広いことや巨大なスクリーンなどを紹介すると興奮していた。



●職員による大学説明



●後日届いた、小学生からのお礼の手紙

次は八階に上がり、東側では成田国際空港や成田山新勝寺など、成田を象徴する建物を、西側からは医学部棟の建設現場を見学した。大きなクレイン車のテッペンなど、上空からしか眺められない景色に感動した様子であった。

(広報 瀬谷直貴)

公津の杜小学校二年生が来学

六月三日、地元「公津の杜小学校」二年生一三三名が本学の施設を見学した。

最初に、特大講義室で事務職員が大学の概要を説明した。普段授業を受けている教室より圧倒的に広いことや巨大なスクリーンなどを紹介すると興奮していた。

次は八階に上がり、東側では成田国際空港や成田山新勝寺など、成田を象徴する建物を、西側からは医学部棟の建設現場を見学した。大きなクレイン車のテッペンなど、上空からしか眺められない景色に感動した様子であった。

小学生は、帰る際も元気な声で職員に挨拶をして、プレゼントの大学缶バッジを嬉しそうに持って、学校に帰っていた。

小田原

第39回
キャンパスレポート

「第五二回小田原北條五代祭り」に参加

「北條五代祭り」は、毎年祝日の五月三日に開催される小田原市最大の観光イベントである。このまつりの見どころは約一七〇〇名によるパレードで、甲冑を着た「武者隊」を中心に、小田原市内の中高生による吹奏楽やマーチングバンドの「音楽隊」と、小田原ちようちん踊りや神輿などの「まち衆隊」で構成される小田原市の中心部を練り歩く。毎年、本学の学生も「武者隊」として参加しており、今年は、小田原市議会議員や小田原高等学校との合同で構成される二代將軍の「北條氏綱隊」の役を託され、学生一五名が参加した。

小田原市出身で、「小田原ふるさと大使」の俳優・柳沢慎吾さんが扮する初代將軍・北條早雲を先頭に武者隊のパレードがスタートした。この「早雲隊」に続くのが、本学の学生が参加した「氏綱隊」。甲冑を身につけ、笑顔で堂々と街を歩く学生たちは、沿道からの大きな声援に元気をもらい、二・七キロの距離を一時間半かけてパレードした。

この「北條五代祭り」の様子は、本学の動画サイト「IUHW Headline」でもご覧いただけます。

(総務課 高久晃)

「ときめき国際学校」での交流

小田原市とオーストラリアのマンリー市は友好都市の関係にあり、相互交流事業として、毎年「ときめき国際学校」を行っている。



●高齢者体験の様子

この事業のひとつに、マンリー市の中高校生が小田原市を訪れ、ホームステイをしながら、日本文化の体験を通じて小田原市の中高校生と交流するプログラムがある。その一環として、小田原キャンパスでの交流も毎年企画され、本学の学生にとっては、生の英語に触れる絶好の機会となっている。



●ストレッチ体験の様子

今年七月五日、一三名が体験学習のため、本学を訪れた。看護学科は「高齢者体験」と「妊婦体験」、理学療法学科は「ストレッチ」、作業療法学科は「紙ひこうき」と「紙ずもう」を企画して迎えた。本学の学生たちは、英語を使って積極的に話しかけ、この交流を大いに楽しんでいった。

(総務課 高久晃)

「フレッシュマンキャンプ」を開催

初日はまず、キャンパス内で、「新一年生が希望する食堂メニューを考える」をテーマとしたグループワークと、黒澤和生学部長による講話『大学の歴史』を実施した。その後、新入生一六九名、上級生一名、教職員一三名が、静岡県御殿場市の国立中央青少年の家へ移動し、快晴のもと、フレッシュマンキャンプが始まった。



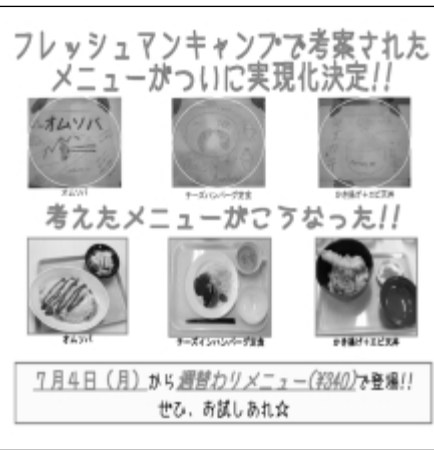
●黒澤学部長の講話

入所オリエンテーション、オリエンティング、夕べのつどい、キャンドルのつどいと、休むまもなくプログラムが進んだ。上級生によるレクリエーションは、趣向を凝らした楽しい企画が用意され、準備も万端でスムーズに進行した。キャンドルのつどいは、一人ひとりがキャンドルに火を灯し、幻想的な雰囲気を出した。



●キャンドルのつどい

二日目は肌寒い曇り空のもと、朝のつどいで始まった。山の天気は変わりやすく、すぐに大雨が降り出したため、フードハンティングの予定を変更して、全班同じ食材での野外



●採用された新学食メニュー

(学務課 下田智香子)

炊事となった。雨の中の火起こしに苦戦し、何とか調理が始まると、カレーのルーが足りなくなるハプニング。調理から後片付けまで、学科を越えて協力する姿が見られた。



●野外炊事のカレー作りで一気一体感が生まれた

大学に戻って最後のグループワークの時間には、疲れが見えるなか、小田原保健医療学部の一員としての仲間の絆ができていた。これから四年間、医療人になる目標に向かって邁進してほしい。

なお、初日のグループワークで提案された採用された学食メニューは、七月四日から提供されている。



第29回 福岡

キャンパスレポート

平成二八年度 四年生親睦会

七月二三日、福岡看護学部看護学科四年生が「国家試験全員合格」に向けた親睦会を行った。

今回の親睦会は、
①各自の目標を掲げたカードを「実りの木」に貼り付け、「国家試験全員合格」を決意する

②学生同士が国家試験や就職など、共通の目標を持つ者として仲間意識を高める

③学生と教職員との親睦を図る

の三つを目的に、四年生学級委員が企画・運営したものだ。

福岡看護学部長の斉藤ひさ子先生のご挨拶に続いて、学科長の今村桃子先生、国家試験対策委員長の原田広枝先生より、国家試験の対策や夏季休暇中の学業を含めた生活全般についてお話をいただいた。その後、先生方と学生がテーブルを囲み、昼食をとりながら、国家試験や就職、さらには、学生生活やプライベートな話題で親睦を深めた。お越しいただいた先生方からは学生一人ひとりに

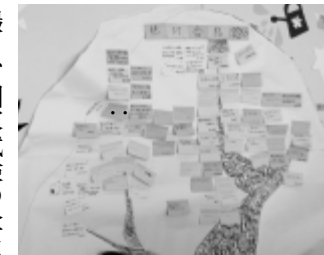


●話題が尽きなかった昼食会

にエールをいただき、改めて、応援・アドバイスをくださる恩師に恵まれたことへの感謝の気持ちを忘れてはならないと感じた。

歓迎後は、それぞれが国家試験合格に向けての決意をカードに記入し、模造紙で作成した「実りの木」に貼りつけた。

男子学生の「頑張るぞ!」の掛け声を合図に、四年生と先生方による集合写真を撮り、国家試験の全員合格を誓った。



●それぞれの思いを託した「実りの木」

今回の親睦会で、これまで多くの授業、課題、実習を乗り越えることができたのは共に学ぶみんなの協力のおかげだと実感することができた。あつという間に最終学年の四年生となったが、来春の国家試験合格発表の日を、福岡看護学部の四年生九八名全員が笑って迎えたいと強く思った。そのためには、今、ここからそれぞれの掲げた目標を達成できるように頑張りたいと思う。



●国家試験全員合格を誓う

(看護学科四年生 青柳竹信・岩原美乃)

第43回 大川

キャンパスレポート

九州地区リハビリテーション臨床教学共同研究大会

七月三日、大川キャンパス二号館大講義室で国際医療福祉大学・高邦会グループ「九州地区リハビリテーション臨床教学共同研究大会」を開催した。この大会は若手職員の教育・研究の推進を目的としたもので、今年で六回目を迎えた。今年は「呼吸器リハビリテーション」をテーマに、福岡保健医療学部言語聴覚学科長で、日本言語聴覚士協会会長の深浦順一教授を大会長に迎え、グループ



●大会長として挨拶に立つ深浦学科長

のりハビリテーション職員や大学、専門学校の教員など約二七〇名が参加した。

研究会代表である福岡保健医療学部の辻貞俊学部長と深浦大会長による挨拶で幕を開け、福岡保健医療学部理学療法学科の金子秀雄准教授、柳川リハビリテーション病院の小池文彦副院長による教育講演が行われた。

続いて、高木病院副院長・呼吸器センター長の林真一郎教授が「呼吸器疾患と包括的リハビリテーション」をテーマに講演。慢性閉塞性肺疾患患者を例に挙げ、リハビリテーションによって日常生活の活動をいかに向上させるかという課題を提示。さらに、リハビリテーションの主たる目的は「自主的な運動習慣の定着」にあるものの、実地臨床では医療側の目が必ずしもそこに向けられていないわけではないため、それぞれの患者さんに対して、医療側が介入のオーダーメイド化を行っていくべきであるとの方向性を示した。



●研究会代表として挨拶に立つ辻学部長

また、呼吸器疾患へのリハビリテーションの取り組みに関するシンポジウムでは、高木病院の古賀秀作さん(理学療法士)などがシンポジストとして登壇し、積極的な意見交換が行われた。

最後に、福岡保健医療学部理学療法学科の森田正治学科長を座長として、グループ各施設の代表者が研究発表を行い、活発な質疑応答を交わした。リハビリテーションに携わる若手職員にとって実り多き一日となった。

(入試学生募集課 井上雅博)

福岡キャンパス・大川キャンパス 第4回 合同運動会

2016 May 14

5月14日(土)、今年で4回目となる福岡看護学部、福岡保健医療学部の「合同運動会」が大川キャンパスのグラウンドにて開催された。約650名の学生が集結し、8チーム対抗の大運動会となった。

(入試学生募集課 井上雅博)



●応援合戦



応援合戦の優勝は看護学科Bチーム



●選手宣誓



●ドッジボール



●ランチタイム



●実行委員



●糸山泰人副学長による開会のご挨拶



●ラジオ体操



学生対抗リレーの優勝は理学療法学科1年



●表彰式

大縄跳びの優勝は言語聴覚学科



●斉藤ひさ子学部長からの講評

第13回 大学院

キャンパスレポート

平成二八年度 乃木坂スクールを開講中

大学院では、医療福祉関係者のための生涯学習のコースとして、「乃木坂スクールin青山」を開講している。対面での講義のほか、複数の科目で遠隔授業システムの利用やインターネット上での動画・資料の公開を実施するなど、受講者の利便性に重きを置いた運営が特徴である。

今年度前期コースでは、七月から九月にかけて新たに「医療通訳講座」を開講した。近年、日本の医療機関を受診する外国人患者さんの増加にともない、「言語」の問題が課題とされているなかで、単に複数言語を話せるというだけでなく、医療機関で基本的な通訳技術や医学に関する知識、さらには海外の医療文化との違いも理解できる人材が求められている。本講座では、現場の第一線で活躍している学内外の医師、医療通訳者など、三〇名以上の講師陣を迎え、英語と中国語の各言語について講座を展開し、受講生たちは医療通訳の現場で必要とされる知識と技術の習得に励んでいる。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン イベントのお知らせ

大学院では、平成二四年度より文部科学省事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に取り組んでいる。博士課程に在籍している看護師、診療放射線技師、薬剤師の専門職を対象として、履修一年目には講義により知識を深め、二年目には実習として、臨地において先端医療を受けるがん患者さんを対象とした多職種連携の「チーム医療・チームケア」を実践的に学ぶことで、がんに関するプロフェッショナルな医療人の育成をめざしている。

今年度は他大学院との協定に基づく科目履修生一名を含む六名が新たに登録し、通常の博士課程の履修に加えて勉学に力を注いでいる。本取り組みは平成二八年度の文部科学省の財政支援期間終了後を見据え、今後より充実したプログラムとして展開するべく、新たな将来設計の検討を進めている。

本誌三ページの目次下に掲載の通り、平成二八年一〇月二三日(日)に、公開シンポジウムと一般市民公開講座・講演会を企画している。いずれも事前申込みのうえ、無料でご参加いただけるので、興味をお持ちの方はぜひご参加いただきたい。詳細やお申し込みについては大学院のホームページで公開している。

(大学院運営室 近納一重)

第21回 塩谷看護 専門学校

キャンパスレポート

塩谷看護専門学校図書室の蔵書は、看護関係の図書・雑誌を中心に現在約七五〇〇冊。学生と教職員の希望を取り入れ、教育に必要な教養・社会性を高める図書を購入するために、「図書室運営会議」を設置し、選書は年に四回行っている。選書の際に心がけていることは、一冊一冊の内容を確認し、学生が必要としている図書であること、ほかの大学図書館や読者の評価を参考にすることである。



●自発的な活動で図書館を支える図書委員のメンバー

塩谷看護専門学校図書室の蔵書は、看護関係の図書・雑誌を中心に現在約七五〇〇冊。学生と教職員の希望を取り入れ、教育に必要な教養・社会性を高める図書を購入するために、「図書室運営会議」を設置し、選書は年に四回行っている。選書の際に心がけていることは、一冊一冊の内容を確認し、学生が必要としている図書であること、ほかの大学図書館や読者の評価を参考にすることである。

看護学生の三年間は多忙である。課題、試験、実習、国試の準備で無駄にできる時間はない。その貴重な時間を使って、図書委員の活動に励んでいる。「愛」がなくてはできない活動であり、これは我が校の校風でもある。学校全体が温かい空気に包まれている。

全学年に協力をお願いしているのが、図書と雑誌の「コピー利用表」の記入である。図書については登録番号を、雑誌についてはチェック欄に正の字を記入してもらい、利用実績を把握している。こうした協力が、次の選書へと繋がっていく。学生のニーズに応えながら、一冊でも多くの良書を受け入れ、図書室を整備していくことが司書としての使命である。

今後の課題は、「所蔵資料検索(OPAC)」を整備し、学外からも所蔵の確認ができるようにすることである。どこにいても必要な情報を手でできるということとは大切である。さまざまな図書館・図書室の良いところを取り入れ、学習の場としても思考を整理する場としても、誰もが必要とする図書室にしていきたい。卒業してからでも利用しにくいような図書室が目標である。

(司書 室井美和)

あいおいニッセイ 同和損害保険株式会社 奨学生認証式

五月三十一日、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社本社で、同社の金杉恭三代表取締役社長、真鍋洋取締役副社長執行役員、樋口昌宏取締役常務執行役員、菅明子広報部長、本学の高木邦格理事長、大友邦学長、松谷有希雄副学長、宮崎勝副学長、小林雅彦学生部長、小林一也事務局長らが列席し、奨学生認証式が行われた。

この奨学金制度は、平成九年に同社の前身である同和火災海上保険の創立一〇〇周年記念事業の一環で、教育を通じて社会貢献事業として創設された。保健・医療・福祉の有為な専門職を育成する本学の学生に奨学金が支給され、今年度で二〇年目を迎えた。新たに奨学生として選ばれた一二名を加えると、延べ一七九名に奨学金が支給され、すでに一四〇名以上が



●前列は新たに奨学生に選ばれた12名

医療福祉現場で活躍している。

金杉社長より、「高い志を持ち、高度な専門的知識をさまざまな経験のなかで知見として身につけ、皆様の必要とされる方に頼られる存在になるようがんばってください」とエールが送られた。

高木理事長は、深く謝辞を述べる一方、学生には、「名譽ある奨学生との自覚を持つて勉学に励み、社会のために役立つてください」と激励した。

(東京事務所 総務企画部)

平成二八年度 国際医療福祉大学 年間成績優秀表彰

平成二八年度年間成績優秀賞受賞者が決定した。表彰式は各キャンパスで実施され、受賞者には副賞として、授業料の最大五〇%の奨学金が授与される。

■保健医療学部

看護学科
四年 味戸千織、三年 山田なつみ、二年 蓮實雄輝
理学療法学科
四年 遊佐彩野、三年 白田瑞貴、二年 佐藤南
作業療法学科
四年 鈴木史織、三年 小野寺美紀、二年 黒崎晴菜
言語聴覚学科
四年 宇井里実、三年 舟守千瑞子、二年 金森春菜
視機能療法学科
四年 酒井あかね、三年 大山夕穂美、二年 間中理紗
放射線・情報科学科
四年 根本玲央、三年 丸山采華、二年 山崎早織

■医療福祉学部

医療福祉・マネジメント学科
四年 高橋葉翔奈、三年 小森美由紀、二年 田村麻由佳

■薬学部

六年 中川博揮、五年 湯山円晴、四年 塚田琢磨、三年 油田彩花、二年 安納美貴

■小田原保健医療学部

看護学科

四年 神田具子、三年 黒岩薫、二年 中本優香

理学療法学科

四年 丸田あゆみ、三年 新郷怜、二年 神崎勇人

作業療法学科

四年 藤井舞弥、三年 深見優樹、二年 永友彩百合

言語聴覚学科

四年 中野明、三年 三野優歩、二年 小林佑子

医学検査学科

四年 渡邊愛梨、三年 西之園葵、二年 塚本のほら

(大田原キャンパス 学生課 松本典子)

「二〇二六年度 IUHW奨学金授与式」を開催

七月一日、三田病院の三田ホールにて、IUHW奨学金授与式が執り行われた。式には、駐日ベトナム社会主義共和国大使館のグエン・ツオン・ソン公使参事官、駐日ミャンマー連邦共和国大使館のキン・ニラー・ソウ外交代表団次長・参事官、カイマー・ウィン・ジン・タン二等書記官にご臨席を賜った。

IUHW奨学金制度は、アジア各国の医療福祉分野の人材育成に寄与すること

を目的に、在



●大学院生のアリョーナさん



●学部生のホアンさん

ム公使参事官、キンミャンマー外交代表団次長・参事官からそれぞれ挨拶があり、人材育成の重要性が確認された。

今年度の奨学生

- テベ・ウインさん(ミャンマー・女性)
医療福祉学研究科博士課程
保健医療専攻 放射線・情報科学分野
- アリョーナ・ソンドロワさん(モンゴル・女性)
医療福祉学研究科博士課程
保健医療専攻 医療経営管理分野
- ター・タインさん(ミャンマー・女性)
医療福祉学研究科修士課程
医療福祉経営専攻 医療経営管理分野
- ド・コック・トウグさん(ベトナム・男性)
医療福祉学研究科修士課程
保健医療専攻 作業療法学分野
- ホ・ア・フック・アエン・ホアさん(ベトナム・男性)
成田保健医療学部
言語聴覚学科

(東京事務所 国際部)

熊本地震募金活動

熊本県と大分県で、四月一四日以降相次いで発生した地震では、学生と教職員の自宅や実家、本人や家族に一部被害や避難が発生したものの、けがなど被害はなかった。

大田原キャンパス

言語聴覚学科二年生有志は、ゴールデンウィークの前後、休み時間を利用してキャンパス内の各所で活動。大学生が多く被災した熊本県南阿蘇村への募金呼びかけ。

また、休日を利用して、ボランティアサークル「あおぞら」やボランティア部「かざはな」は学外で募金活動を実施。市内の「道の駅、那須与一の郷」、「東武宇都宮百貨店」、「カインズホーム」で活動を行い、全額を熊本県へ寄付した。



●ボランティア部「かざはな」



●ボランティアサークル「あおぞら」



●言語聴覚学科2年生有志

による募金活動は延べ一三日に及び、合計五万七千四百八十二円が被災地へ送られた。

(ボランティアセンター 中里愛)

成田キャンパス

ボランティアサークル一年生有志は、五月一日〜三日の放課後を利用して、京成本線公津の杜駅前で募金活動を行った。学生による募金活動で合計四万八千五百六円が被災地へ送られた。



●ボランティアサークル有志

一方、教員のボランティア活動では、言語聴覚学科の原田裕美教授が、震災発生直後に、被災者支援のNPO法人の本部がある東京へ駆けつけ、被災地に人員を送るコーディネートを行った。



●手作りのくまの募金箱

大川キャンパス

地震発生直後より、学生会・ボランティア部を中心として支援活動を開始。熊本ボランティアセンター設置後の毎週土日に熊本市内へ出向き、延べ一三二名の学生がボランティア活動に参加した。学内では昼休みと放課後に、募金活動や支援物資の募集を行い、集めた支援物資を四月末に熊本県玉名市役所へ運び、

阿蘇地域の要支援者へ届けられた。

募金活動は六月末まで実施し、合計一六万三〇〇〇円が熊本県へ送られた。



●熊本市内でのボランティア活動

福岡キャンパス

四月二九日から五月一日にかけて、南鳴里佳助教が菊池市の避難所巡回と被災者の健康状態把握を行った。五月一日・四日には、災害看護を担当する末永陽子助教を筆頭に、前田和香子講師、葛山加也子講師、森雄太助教、南嶋助教の計五名が、阿蘇医療センター内で、破損物品の片付けや患者さんの清潔ケア等を行い、被災地支援に尽力した。



●昼休みを利用した募金活動

また、学生会が中心となつて五月一日から六月一六日までの一か月間、毎日昼休みに街頭募金を行い、合計六万四千七百一十一円が日本赤十字社を通じて被災地へ送られた。さらには、これらの活動をきっかけに「ボランティアサークル」も設立された。教員から学生へと繋がったボランティア活動の輪が今後ますます広がり、活性化していくことが期待される。

(学生係 水洗朋美)

大田原キャンパス ボランティアセンター

「岩沼市『千年希望の丘』植樹祭」に参加

大田原キャンパスでは東日本大震災の被災地支援を継続しており、五月二八日、宮城県岩沼市の植樹祭に参加した。本学の参加は三回目となり、今年は学生・教職員五十三名が参加した。



●植樹場所の「千年希望の丘」では、千年先まで岩沼の地を津波から守るため、二〇一三年からボランティアによる植樹活動が進められている。

毎年全国各地からボランティアが参加し、四回目の今回は約一万二千人が集結し、およそ一〇万本を植樹した。

(学生課 阿久津大輔)

「医学部説明会」を開催

来年四月の新設に向けて設置認可申請中の医学部説明会を各地で開催している。六月〜七月は四か所で開催し、参加者は合計一三九〇人となった。

・六月一日 東京
・六月二五日 大田原キャンパス
・六月二六日 成田キャンパス
・七月二日 福岡キャンパス



●東京会場で挨拶に立つ大友学長

東京会場では、矢崎義雄総長が「O'morrow's doctor」の育成をめざすと強調し、大友邦学長が国際性を重視した医学部の狙いを述べた。続いて、本学医学部教授就任予定の倉橋清泰・横浜国立大学芸術群准教授が「新しい医学部から世界に飛躍してほしい」と呼びかけた。さらに、副医学部長予定者の吉田素文教授が医学教育のキャリアキ

大田原キャンパス 看護学科

「保護者のための就職講座2016」

七月九日、在学生の保護者を対象に、大卒看護士の就活サポートを考える講座を開催した。これは、関連病院を保護者に知っていただき、関連病院への就職を促進することを目的としたものである。

午前中は学科長の挨拶に続き、「これからの大卒看護士の就活のすゝめ」として、特に新人看護士が陥りやすい「就職時の理想と現実のギャップで起こるリアリティショック」の現状と対策について研究結果をもとに説明した。



続いて、本学一学生で、国際医療福祉大学病院の副院長である福田啓也氏から卒業生として自身の体験を踏まえ、病気を抱える患者さんへの看護をとおして看護師として成長した経験を語っていた。

また、関連病院の概要について国際医療福祉大学病院の副看護部長小川京子氏の説明とともに、関連病院の教育体制について国際医療福祉大学塩谷病棟の印南裕子教育担当部長より、新人看護士がどのような学習と経験を積み重ね、看護師として成長するのかを踏まえ、キャリア開発プログラムについて説明いただいた。

午後は、国際医療福祉大学病院と国際医療福祉大学塩谷病棟の病院見学を実施した。保護者からは、大学に対する期待が聞かれた。

(看護学科 准教授 樋本まゆみ)

本学大学院生がJMAT(日本医師会災害医療チーム)に参加

看護学分野感染管理・感染看護学領域修士課程一年の吉森みゆきさんと吉満桂子さんが、JMATから感染管理認定看護師として派遣された。



●感染対策チームのミーティング風景(写真右端が吉満さん、その隣が吉森さん)

「避難所(宇土市・益城町)は、人と人が密接し、きれいな水の確保も困難であり、衛生状態を保ちにくかった。南阿蘇村で発生したノロウイルスの小感染拡大も懸念される状況下で、避難所の環境アセスメントに基づき、限られた資源を活用しながらの活動だった。被災者にあまり環境衛生対策を強いることもできないため、現地の保健師と知恵を出し合い、『迅速』に『効果的』で、『具体的』かつ『わかりやすい』支援を心がけ、実践可能な感染予防策を講じることができた」。

今後も本大学院では高度な専門知識の提供に加え、より実践的な教育(エビデンスとベストプラクティス)を行うことで、社会に貢献できる医療人を育成していく。

(東京青山キャンパス 准教授 崎浜智子)

二〇一五年度卒業生

国家試験結果報告

三月二九日までに二〇一五年度国家試験の合格発表が出揃い、その結果、以下において、合格率一〇〇%を達成した。

- ・保健師(小田原保健医療学部)
- ・助産師(大学院 大田原キャンパス)
- ・助産師(大学院 福岡キャンパス)
- ・視能訓練士(保健医療学部)

さらに、薬剤師(薬学部)で九九・一%(受験者数一〇〇人以上の大学では全国一位)を達成するなど、全学部・全学科で全国合格率を上回る好成績をあげた。また、合格者数においては、いずれも保健医療学部の以下各学科において、引き続き全国一位を維持した。

- ・理学療法士(保健医療学部)〓九九人
- ・作業療法士(保健医療学部)〓九五入
- ・言語聴覚士(保健医療学部)〓九〇人

本学では国家試験全員合格をめざし、国家試験対策に取り組む学生を、多くの教職員がきめ細かいサポート体制でフォローしている。今年度の国家試験対策はすでに始まっており、引き続き、教職員一丸となつて全員合格をめざす。

(大田原キャンパス 教務課・東京青山キャンパス 大学院事務局)

国際関係特集

インドネシア
ウダヤナ大学学長が訪問

六月九日から一三日まで、本学の提携大学であるインドネシアのウダヤナ大学のクトゥット・スアスティカ学長、プトウ・アスタワ医学部長、デサ・マデ・ウィハンダニ医学部国際室長が本学キャンパスならびに医療福祉施設を視察した。



●スアスティカ学長(左)とアスタワ医学部長、高木理事長

ウダヤナ大学は、インドネシアにおける初めての医学提携大学であり、学術交流協定を結んだばかり。今回は二日間ながらも各施設の協力を得て、栃木地区では大田原キャンパスならびに国際医療福祉大学病院、マロニエ苑、にしなの総合在宅ケアセンター、東京・千葉地区では、成田キャンパス、三田病院、山王病院、山王バースセンター、山王メディカルセンターをご案内し、本学グループへの理解を深めていただいた。

また、東京事務所での協議では、本学の学生研修の受け入れなど、今後のさらなる交流について話し合ったほか、インドネシア大使夫妻もお招きしての晩餐会も開催した。親睦を深めると同時に、本学のインドネシアに対する国際医療協力への姿勢を示すよい機会となった。

(東京事務所 国際部 佐野美智子)

元培医事科技大学からの
短期研修生を受け入れ

本学の協定校である台湾の元培医事科技大学より、ヘルス・マネジメント学科に在籍する三名の短期研修生が来日し、大田原キャンパスおよび当グループの栃木・東京地区にある医療福祉施設で研修を実施した。



●栃の実荘で利用者さんへ歌の披露

六月二七日に成田空港に到着した三名の研修生は、成田キャンパスを見学した後、大田原へ移動。七月三〇日までの五週間、附属病院や医療福祉施設を見学したり、大田原キャンパスにおいて小林雅彦医療福祉・マネジメント学科長や同学科の先生方による講義・実習を受けた。また、本学の特色の一つである関連職種連携教育の紹介として、医療福祉・マネジメント学科以外の七学科の授業や、留学生別科での日本語および日本文化学習を体験した。加えて、日本人学生や外国人留学生、施設の利用者さんとの交流の機会も設けた。

同大学のヘルス・マネジメント学科生の受け入れは今回で三回目となり、このような交流を通じて、今後両大学の親交がますます深まることが期待される。

(大田原キャンパス 国際室 藤原志保)

さくらサイエンスプランで
医学部生二〇人・教員二名が
来訪

●国福病院長の太田喜久夫教授による講義を熱心に聞く学生たち

国立研究開発法人科学技術振興機構の日本・アジア青少年サイエンス交流事業(通称・さくらサイエンスプラン)の平成二八年度第一回公募に、本学の「ベトナムの医学生に対する先進的リハビリテーション医療分野での人材育成支援」をテーマとした企画が採択された。それにより、本学の協定校であるベトナムのハノイ医科大学、ホーチミン市医科薬科大学から医学部の教員・学生計一二名を大田原・成田・東京へ招いた。

六月二九日から七月八日までの一〇日間、赤居正美副大学院長による講義をはじめ、国際医療福祉大学病院太田喜久夫教授、保健医療学部、成田保健医療学部、大学院の教員による講義や実習、および三田病院、山王病院、山王バースセンター、国際医療福祉大学病院等のグループ関連施設の見学を実施した。また、文化体験として、留学生別科による日本語・日本文化体験を実施した。

研修生からは「またぜひ日本にきたい」、「今回の経験をベトナムの医療に生かしたい」などの感想が聞かれ、大変満足した様子であった。

(東京事務所 国際部 武藤大志郎)

海外三校と
新たに学術交流協定を締結

本学は、三月二四日にフィリピン大学マニラ校医学部、四月一日に米国のピッツバーグ大学医学部、五月二二日にスペインのアルカラ大学と学術交流協定を締結した。フィリピン大学は、一九〇八年創立の国内最古の国立大学で、医学部、看護学部、コメディカル学部(作業療法学科、理学療法学科、言語聴覚療法学科)、公衆衛生学部、薬学部など九学部を擁し、学生数は大学院生を含め約五九〇〇名、国内の医療教育の中心的存在である。

ピッツバーグ大学は、一七八七年創設で、医療系学部は医学部、公衆衛生学部、薬学部、看護学部、歯学部、リハビリテーション学部を擁し、学生数は大学院生を含め約三五〇〇名。PBL教育・参加型臨床実習に力を入れた医学教育を実践し、医学研究分野でも米国トップレベルの大学である。

アルカラ大学は、大学およびその周辺の歴史区域が世界遺産に登録されているヨーロッパ最古の部類の大学で、健康科学系分野では、医学部、看護学部、薬学部、身体スポーツ科学部、理学療法学部、健康生物学部を擁し、学生数は大学院生を含め約二八〇〇〇名、うち留学生が六〇〇〇名と国際色豊かな大学である。

今後、学生・教員の相互派遣など、交流関係が進展していくことが期待される。

(東京事務所 国際部 成田プロジェクト 山岸洋子)

ベトナム・モンゴルの
大学と医学部留学生
特別奨学金制度に
関する覚書を締結

本学は、六月三日、ベトナムでハノイ医科大学(HMU)、ホーチミン市医科薬科大学(UMP HCMC)、およびベトナム保健省と、さらに六月二〇日、モンゴルでモンゴル国立医療科学大学(MNUS)と、優秀な学生が本学医学部に留学するための特別奨学金制度設置について覚書を締結した。



●ハノイでの調印式

ベトナムの首都ハノイにあるHMU構内で開かれた調印式では、大友邦学長とHMUのグエン・ドゥック・ヒン学長、UMP HCMCのチャン・ジェブ・トゥアン学長が、ベトナム政府のグエン・ティ・キム・ティエン保健相の立会いのもと覚書に署名した。

モンゴルでは大学内の特設ゲルで調印式が行われ、在ウランバートル日本大使館の清水武則大使、保健スポーツ省医政



●モンゴル国立医療科学大学のバトバートル学長(右)と高木理事長。左は清水駐モンゴル日本大使

局のエルフボルド部長の立会いのもと、大友邦学長とMNUSのバトバートル学長が覚書に署名した。

同制度は、ベトナム、モンゴル側が推薦する学生を本学が最終選考し、合格者に対し同大医学部を卒業するまでの六年間、入学金や授業料、教材費、生活費など一人当たり計三〇〇〇万円の奨学金を供与するもの。この制度は、留学生が日本で医学を学び、日本の医師免許を取得、国際医療福祉大学関連病院などで臨床経験を積んだ後、母国に帰国し、保健医療分野で母国の発展に寄与することを目的としている。

成田市に来年四月開設予定(設置認可申請中)の医学部では、一学年の定員一四〇名中、アジア各国などから優秀な留学生二〇名を受け入れ、母国の医療分野で将来リーダーとして活躍する人材を育成する計画である。今後はインドネシアやミャンマーなどアジアのほかの国々の大学と同様の奨学金制度を始め、検討している。

(東京事務所 国際部 武藤大志郎)

留学生が見た 母国と日本の保健福祉事情 第6回



●黄富表(コウフヒョウ)さん 中国出身 作業療法士 博士課程 保健医療学専攻 作業療法分野 二〇一五年度修了

私は北京にある首都医科大学のリハビリテーション治療学(日本における学部にあたる)の一期生です。一年次と二年次で共通の基礎知識を学び、三年次から理学療法と作業療法に分かれます。私は作業療法に進みました。卒業後は大学の附属病院である中国リハビリテーション研究センターに所属し、作業療法臨床、教育と研究を受け持っています。

二〇〇八年から本学の修士課程で学び、二〇一三年からは、さらに本学の博士課程で学びました。谷口敬道先生には、修士・博士を通して、終始ご指導いただきました。

中国では、一九七九年から二〇一五年まで続いた「二人っ子政策」の影響で、人口の高齢化が急速に進んでいます。私が作業療法を選んだのは、認知症などの精神的な障害を持ちながら生きる人が増えている現状を見て、機能の回復より、生活の適応に関わってほしい

作業療法に大きな可能性を感じたからです。作業療法はその人の性格や創造力にも関わりながら、自具や福祉用具など、提供できるものが多岐にわたることが特徴です。実際に、健常者といわれている人たちが、何かしら「弱い部分」を持ちながら生きており、障害を持ちながら生きることが決して特別なことではないと思います。

私の博士論文のタイトルは、「注意機能障害と前頭前野脳血流動態に関する研究 - Continuous Performance TestとNIRSを用いた検討 -」でした。認知症による注意機能障害では、「ひとつのことに集中できない」という症状が現れます。このときの前頭前野の血流を調べて、改善や生活の維持に向けた有効な手段を探ることがテーマです。

機能よりも、その人の持っている能力、その人が望んでいる生活に着目しながら、精神面を含めた評価の方法を確立することも今後求められてくるテーマです。さらに、こうした研究を通じて、「政策」にも目を向けた取り組みをめざしていきたいと思っています。



「赤坂キャンパス起工式」を実施

七月五日、旧赤坂小学校跡地（東京都港区）で赤坂キャンパスの起工式を執り行った。式で安全を祈願した後、武井雅昭港区長が「赤坂キャンパスの新設について、区としてもできる限り協力し、港区の新しいシンボルとなることを期待しています」と挨拶した。また、本学の高木邦格理事長が二〇一五年の着工をめざしていた赤坂キャンパスについて、「港区や近隣住民の皆様をはじめとする多くの方々のご協力により、無事起工式を迎えることができました」と関係者への感謝を示した後、「赤坂キャンパスでは、国内最大級の生涯教育の拠点となることをめざすとともに、外国人を対象とした健康に関する医療相談に対応するなど、二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックを見据えた体制を整えます。また、公認心理師・診療情報管理士を養成する学部の新設や、すでに四〇〇名以上の大学院生が学び手狭となっている大学院の東京青山キャンパスの移転・拡充、来春開設予定の医学部と連携した公衆衛生大学院の開設などを計画しております」と挨拶した。



●斎藤の儀（左から大友学長、高木理事長、天野大学院長）

元の港区と区議会、地域住民の皆様、金融機関の関係者など約一〇〇名の出席があり、新キャンパスに寄せる期待の高さが伺われた。



●赤坂キャンパスI期棟 完成予想図

新キャンパスの建設は一期と二期に分けて行われ、今回着工した地上二階、地下一階の一期棟は、二〇一八年三月竣工予定。一期棟の特長は、①約一〇〇〇人収容可能な講堂で学会や研修などを開催し、国内最大級の生涯教育の新拠点とする、②移転する大学院は、メディカルスタッフの大学院としては国内最大級となる一〇〇〇人規模とし、公衆衛生大学院の開設も計画③公認心理師、および診療情報管理士を養成する新学部の設置、④災害時に最大で約二〇〇〇人の帰宅困難者を受け入れるなど防災機能を整備、⑤地元で大切にされてきた「氷川山車」を常設展示し、講堂をはじめ体育館や図書館などは一般の方々も利用できるようなするなど、住民と連携できる拠点とする、⑥外国人を対象とした「国際交流・赤坂健康相談室」を設置、などとなっている。

本学では、今後も港区や地域住民の皆様方と協力しながら、本学が取り組んできた医療福祉の人材育成や国際的な医療交流などを通じ、地域貢献に努めていく。

（東京事務所 総務企画部 相澤有紀）

新「柳川療育センター」開設
大学の「神経発達症研究センター」も併設

かねてより柳川市三橋町に建設を進めていた新「柳川療育センター」（医療型障害児入所施設・療養介護事業）が、この春完成。五月一日、柳川市上宮永町にある旧センターより移転した。新センターは地上三階建て。入所定員を五五人から一一〇人に、短期入所・日中一時支援の定員を五人から一〇人に増やして療養機能を強化するとともに、発達支援センターなど児童発達支援事業を拡充して通所支援の充実を図っている。また、専門外来、外来訓練の拡大により治療・訓練への早期介入、症状や状況に応じた多様な療育とリハビリテーションが可能となるなど、療育・発達支援の分野で日本有数の規模を誇る。さらに、国際医療福祉大学三田病院の「神経発達症研究センター」を併設し、療育・リハビリテーションにおける先進的な教育・研究・臨床を行う。

移転に先立ち、四月二三日には完成記念講演会と見学会を開催。高嶋幸男施設長の挨拶の後、桃井眞里子副学長、



●鏡開きの様子

下泉秀夫国際医療福祉リハビリテーションセンター長が座長を務めるなか、東京大学医学部小児科教授・岡明先生、久留米大学医学部小児科主任教授・山下裕史朗先生が脳性麻痺の現況や療育への期待、発達障害児・家族の支援をテーマに講演され、当センターの意義を地域の方に認識していただいた。最後は、長田陽一発達支援センター長が「今日の講演で示していただいた新柳川療育センターがめざすべきゴールを肝に銘じ、器に負けない中身をつくっていききたい」と締め括った。

続く懇親会では、高木邦格理事長の挨拶の後、金子健次柳川市長をはじめとする来賓の皆様よりご祝辞をいただいた。福岡県の福祉労働部からも「新柳川療育センターが重症心身障害児に加え、発達障害児への支援事業を強化したことは非常に意義深く、今後さらにわが国の障害児の福祉向上に大いに寄与するものと確信する」との言葉をいただくなど、センターへの期待の大きさが伺われた。

（九州地区広報室 帆足リエ）



●新「柳川療育センター」全景



●正面入口

附属病院

国際医療福祉大学病院

「健康フェア2016」
健康長寿の秘訣を知る会を開催

六月二日、健康長寿の秘訣をテーマにした「健康フェア2016」を開催し、二八〇名を超える来場者を集めた。開会式では、桃井眞里子病院長の挨拶に続き、那須塩原市の菊地富士夫保健福祉部長、那須郡市医師会の深町彰会長、当院後援会の佐藤幹夫会長から挨拶をいただいた。シンポジウム「かかりつけ医の役割」では、活発な意見交換があったほか、当院医師によるミニセミナーや体験型イベントも例年通り開催した。



●シンポジウム後、ご当地キャラと一緒に

来場者からは、「シンポジウムで、かかりつけ医の役割がよくわかった」、「ミニセミナーがわかりやすく、非常に参考になった」といった声が聞かれ、大盛況のうちに終了した。

（総務企画課 柳田建司）

附属病院

国際医療福祉大学塩谷病院

「第二回・第二回市民公開講座」を開催

今年度の第一回・第二回市民公開講座を、五月二八日・六月二五日に矢板市の市民文化会館小ホールで開催した。

■第一回「腰痛の最新の知識」
整形外科部長 笹生豊教授

■第二回「専門医からの脳卒中とてんかんの話」
副病院長・脳神経外科 小黒恵司教授

地域の皆様の関心は高く、二回で合計約四〇〇名が参加され、講演後には多くの質問をいただいた。その後の当院リハビリテーションスタッフによる「ワンポイントアドバイス」では、簡単にできる健康体操を紹介し、参加者は真剣に身体を動かしていた。

いずれも下野新聞に採録記事が掲載され、多くの受診希望の問い合わせをいただいている。今後もこうした活動を通じて、地域の皆様の健康に役立つ情報を提供していきたい。

（総務・人事課 野地智実）



●第2回公開講座の様子（小黒教授）



●第1回公開講座の様子（笹生教授）

附属病院

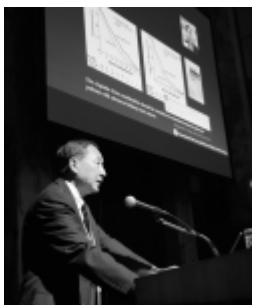
国際医療福祉大学三田病院

医療連携協議会で宮崎病院長が講演

四月に新たに宮崎勝病院長を迎えた当院では、新病院長を広く連携医療機関に紹介する目的で、八月一日に医療連携協議会を開催した。当会は、連携している八三医療機関より一四五名のご来賓を迎え、北島政樹副理事長の挨拶、大友邦学長の「自己免疫性脾炎」に関する講演を交え、盛況なものとなった。宮崎病院長は、「肝胆脾外科・その最新の進歩と今後の潮流」をテーマに、近年の肝胆脾外科の進歩について講演された。この領域を牽引する第一人者として自らの経験を交えたお話は、迫力と説得力のある内容だった。講演はテーマにとどまらず、「自らにおごらず成長し続けるべきこと、そして切除のみが完治させざるのちに、切除の困難さにより外科切除を諦めてしまうことは、外科医の敗北である」という自らの外科医としての信念で締めくくられた。

会場は熱気に包まれ、さらなる連携強化につながる最良の機会となった。

（国際室 原田憲成）



●講演する宮崎病院長

附属病院

国際医療福祉大学熱海病院

「健康講座」を開催

六月一六日、第三〇回健康講座を開催し、脳神経外科の篠永正道教授による「ブラッドパッチについて」の講演を行った。



●講演中の篠永教授

ブラッドパッチ（硬膜外自家血注入療法）は脳脊髄液の漏れを止める治療法で、この四月に永年の念願が叶い保険適用で行えるようになった。対象となる脳脊髄液減少症は、頭痛・めまい・だるさなど多彩な症状を呈する。保険適用になったことで、長年経済的な問題で治療が行えなかった方や、症状のため働くことができなくなり経済的負担を負っている方にとって、ブラッドパッチを受けやすくなった。

篠永教授の診察には日本中から症状に苦しむ患者様がいらっしゃるが、今回の講演にもはるばる遠方からお越しになり、熱心に講演を聞いた後も、詳しい説明を求めていらっしゃる姿が印象的だった。

今後も皆様に有意義な情報提供を行うよう、定期的に健康講座を開催していく。

（総務課 中原正実）

本学はキャリアアップをめざす医療福祉職の方々を支援するため、大学院進学をはじめとするさまざまな学習の場を提供しています。

IUHW Graduate School Information

国際医療福祉大学大学院

医療福祉専門職として活躍中の卒業生のみなさん、
大学院でさらなるレベルアップをめざしませんか！
本学卒業生は入学金が免除となります。
本学グループ職員対象の奨学金制度もあります。

「働きながら大学院で学びたい」 社会人が学びやすい3つの特長

- ①キャンパス** 大田原、成田、東京青山、小田原、熱海、福岡、大川に7つのキャンパスを開設しています。
- ②カリキュラム** 多くの授業を平日の夕方以降と土曜日の昼間にしています。
- ③同時双方向遠隔授業** 複数のキャンパスでリアルタイムに受講できます。質問やディスカッションといった同時双方向のコミュニケーションが可能です。

TOPICS 9/10(土)に大学院オープンキャンパス開催!

東京青山・大田原・小田原・福岡の各キャンパスにて、学校生活や入試に関する説明のほか、各分野ごとの進学説明会を同時開催します。入試シーズンに向け、疑問や不安を解消するよい機会ですので、進学を検討されている方はぜひご参加ください。詳細・お申し込みは大学院ホームページをご覧ください。

詳細は大学院ホームページに掲載しています。

<http://www.iuhw.ac.jp/daigakuin/index.html>

大学院入試に関するお問い合わせは入試事務室まで(TEL: 0287-24-3200)

学べる!役立つ!究める!動画サイト。医療・福祉・介護のエキスパートのあなたへ 医療福祉eチャンネル <http://www.ch774.com> 好評配信中

主な配信番組

- 理学療法分野**
リハ評価指標 温故知新～臨床力レベルアップ～
- 介護・福祉分野**
自立支援型ケアマネジメント・自立支援介護
- 受験講座**
ケアマネジャー受験講座 2016
- 医療・福祉・経営実務**
社会保障の政策形成の最前線2
保健医療福祉政策論2
- リハビリテーション共通分野**
立位・歩行を考える:移動障害への対応を目指して
- 厚生労働省情報**
障害保健福祉関係主管課長会議(3月8日開催) ※無料配信
全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議(3月7日開催) ※無料配信
- 乃木坂スクール**
支援機器活用(生活支援機器概論)
- 情報BOX**
納得!カラダ事典(健康に役立つ情報を専門医がわかりやすくお教えします)

お問い合わせは フリーダイヤル 0120-870-774 医療福祉eチャンネル お客さま係(月曜～金曜 9:00～17:00)
Eメール info@iryoufukushi.com 〒107-0062 東京都港区南青山1-3-3 青山一丁目タワー4階

IUHグループ職員・学生向け動画配信サイト 「国際医療福祉大学VODライブラリー」<http://www.ch774.com/student.php>

●**大学授業・副教材**
教育学、日本近現代史、宗教学、ボランティア論、国際医療福祉論、生命倫理、医療福祉教養講義、音声障害学、PT動作分析論、生理光学、公衆衛生看護活動、産業看護の基礎、視能訓練学、他

広報誌 IUHW 106 号

発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕 広報委員会
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
〔成田キャンパス〕
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25 ☎0465-21-6500

〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4 ☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市横津137-1 ☎0944-89-2000
編集：大田原キャンパス広報室 ☎0287-24-3210
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

<http://www.iuhw.ac.jp/>

同窓会通信

Vol.11

平成二八年度支部会活動について
同窓会支部会活動をご紹介します。今年度も、関東、九州、中国(北京)地区の三つの支部会でイベントを開催いたします。

関東支部会

八月二八日(日)、第三回関東支部会イベント及び各学科分科会イベントを国際医療福祉大学学会学術大会(二日目)と同日に、大田原キャンパスO棟一〇一教室ほかで開催いたしました。詳細は、郵送物または同窓会ホームページ、同窓会メールマガジンなどでご案内をしておりませんが、今年も多数の同窓生、在校生、教員の皆様にご参加いただきました。同窓生のみなさんでも参加いただける総会イベントとして、フジテレビ「ホンマでっか!?TV」でお馴染みの澤口俊之先生(人間性脳科学研究所所長)による一時間の特別講演を実施しました。



●平成27年度放射線・情報科学分科会卒業研修の様子

今年も、第一期生から今年三月に卒業した第一期生まで、さまざまな年度の同窓生からお申込みをいただきました。次年度も同時期に関東支部会を開催いたします。ぜひ毎年の会にご参加いただき、懐かしい仲間との再会の時間としてください。なお今年度の開催報告は、同窓会ホームページへ

九州支部会

【理学療法分科会研修会】
日時：一〇月(未定)
場所：大川キャンパス
内容：教員による講義
※詳細が来月または登録しているメールにてお知らせします。
【作業療法分科会研修会】
日時：一〇月二九日(土) 一三時
場所：大川キャンパス一号館
内容：講演「今後の日本の作業療法士の動向、社会保障制度」(元厚生労働省職員 作業療法士 宮永敬市氏、分野別検討会)
※詳細は、各期の役員から期別に連絡させていただきます。



●澤口氏プロフィール
専門は神経科学、認知神経科学、霊長類学。理学博士。近年は乳幼児から高齢者の幅広い年齢層の脳の育成をめざす新学問分野「脳育成学」を創設・発展させている。

ーおおよび毎月配信している同窓会メールマガジンでお伝えいたします。
<http://maronie.iuhw.ac.jp/>

講演「脳を活かして健康ライフ」

中国支部会

三月二六日、北京市内ホテルで支部会を開催いたしました。大田原キャンパスの谷口敬道 作業療法学科長による、一時間のIPE(関連

職種連携)講演をいただき、本学での関連職種連携での取り組みが報告されました。中国では職種連携教育が行われていないこともあり、参加した中国籍同窓生およそ二〇名が興味深く聴講している姿が印象的でした。また、懇親会では黄秋晨(ゴウシン)幹事(大学院二〇〇八年度修了)から、同窓生の中国での活躍ぶりが紹介され、職種および国籍をも越えた同窓会となりました。日程は未定ですが、今年度も中国支部会としてのイベントを開催する予定です。



●盛況だった昨年度の中国支部会の様子



●講演する 谷口学科長

大学祭「月華祭」に同窓会が出店します!

昨年に引き続き、大川キャンパスの大学祭「月華祭」に同窓会が出店します。今年も、新規同窓会役員が計画しました。イベント企画幹事は、劉振さん、中村将都さん(理学療法分科会)、久永知佳さん、高田聡美さん(作業療法分科会)、黒田克哉さん、末吉陽日香さん(言語聴覚分科会)です。日程、内容は次の通りです。昨年、たくさんのご来場をいただいた人気コーナーです。ぜひ、遊びにきてください。
日時：一〇月八日(土)・九日(日)
両日共、一三時開始、一五時半受付終了
場所：大川キャンパス 二号館ラウンジ

◆血管年齢測定

波形で血管年齢老化度(動脈硬化度)をチェックすることができます。

◆肌年齢測定

手のひらと頬で測定することで、約五〇秒で簡単に肌年齢が判定できます。



●同窓会九州支部 マスコットアイユーンも待っています。



●血管年齢測定機器

同窓会メールマガジン配信について

月に一度のペースで、同窓会・大学主催イベントの案内や大学学生会(学友会)からの情報を同窓会メールマガジンとして配信しております。ぜひ卒業後も大学Gメールをご利用ください。※大学Gメールのご利用方法については、同窓会ホームページでご案内しております。
<http://maronie.iuhw.ac.jp/>

★住所等が変更になった同窓生へ(お願い)

今後同窓会からの各種ご案内をお送りさせていただきます。住所・勤務先・氏名等の変更の際には、お手数ですが同窓会事務局まで一報ください。

同窓会ホームページ、電話、FAX、メールでも受け付けております。また、スマートフォン利用の方は、左記のQRコードもご利用いただけます。(お使いの携帯機種によりサバーに接続できない場合はPCまたはFAXでのご連絡をお願いいたします)

同窓会「マロニエ」事務局
栃木県大田原市北金丸2600-1
国際医療福祉大学学生課内
TEL: 0287-24-3055/FAX0287-24-3140
Mail: office.maronie@iuhw.ac.jp





成田キャンパス 第1期生座談会

2016年7月20日
実施



始動したばかりの成田キャンパス。そんななか、すでに積極的に活動をしている「軽音サークル」のメンバーに、新キャンパスやその生活について、期待や夢を込めて大いに語ってもらった。

成田キャンパスを選んだ理由は？

- 塚口：**理学療法士になりたい自分にとって、新設の成田キャンパスは立地が魅力で、カリキュラムも最新のものを取り入れているからです。
- 屋城：**やはり新しい設備で充実しているから選びました。
- 山口：**今年からできた新しいキャンパスなのはもちろんですが、この大学には附属病院がたくさんあるので、興味がありました。
- 二上：**それと空港や駅が近く、いろいろな所に出かけやすいです。
- 竹内：**駅から近いことはもちろん、第1期生として自分たちで大学の方向性を決めていけることにやりがいを感じたからです。
- 屋城：**来年度から医学部が設置される計画がある※ということで、医療系の大学としてますます発展していくと思ったことも、成田キャンパスを選んだ理由です。
(※設置認可申請中)



山口：何をするにも初めてなので、何かと不便なことも多く、物事をまとめていくのが大変です。しかし、周り協力し合って物事を成し遂げることがとてもやりがいのあることだと感じています。

塚口：「軽音サークル」の部長として、悩み事を相談することができず、わからないこともありましたが、自分一人で考える自立性と行動力がついたので、とてもやりがいがあります。

二上：やることすべてが初めてなので、普段の生活がとても新鮮です。でも単位が取れるとか、宮城県から進学して友人ができるのか心配でした(笑)。

屋城：サークルや部活は自分たちでやりたいことを形にしていけることに意義があると思うので、夏休みの合宿などを楽しみにしています。

竹内：イベントなどは自分たちが主体で一から作りあげられるので、やりがいを感じますし、活動はとても楽しいです。

6月3日に開催した「中庭mini LIVE♪」

どのようなキャンパスをめざしますか？

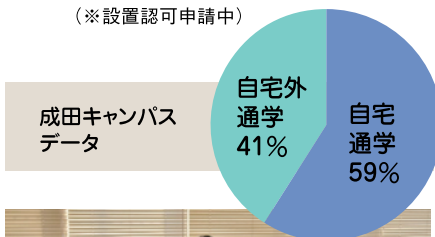
二上：他学科との交流があり、「チーム医療・チームケア」を意識した国際性のあるキャンパスにしていきたいです。

山口：新設ということで、新しい技術や取り組みが行われ、近隣の地域からも大きな期待を寄せられています。そのため、医療の学修に加え、地域との交流を通じて、大学と地域全体を活性化できるような成田キャンパスにしたいです。

屋城：自分がなりたい仕事につけるように、学生みんなで協力して勉強をがんばったり、サークルや部活を楽しめたりするキャンパスになったらいいと思います。

塚口：学生が中心となって大学生活を送っているの、やはり学生が創る大学をめざしたいですね。そして誰もが「この大学に入ってよかった」と言えるような人間関係を築いていきたい。

竹内：地域から愛されるキャンパスになるように毎日がんばります。



●座談会の様子

第1期生のやりがいや不安は？

屋城：第1期生なので、テストの問題の雰囲気かわからない、単位の選択をどのようにするか先生に相談するしかないなど、先輩に相談できないので不安なことが多かったです。



成田キャンパス
データ



看護学科
屋城 百花さん
千葉県立長生高校出身



理学療法学科
塚口 和真さん
千葉県・銚子市立銚子高校出身



作業療法学科
山口 莉奈さん
千葉県立松戸六実高校出身



言語聴覚学科
竹内 清香さん
千葉県・銚子市立銚子高校出身



医学検査学科
二上 大夢さん
宮城県古川高校出身